

佐賀県研究成果情報（作成 2021年3月）

- [情報名] 「豊晴福」、「豊国幸」は枝肉重量、脂肪交雑で優れた産肉能力を有する
- [要約] 「豊茂国」を基礎種雄牛として作出された県候補種雄牛「豊晴福」、「豊国幸」の産子を肥育すると、枝肉重量・脂肪交雑ともに県平均を大きく上回る
- [キーワード] 黒毛和種肥育牛、豊晴福、豊国幸
- [担当] 佐賀県畜産試験場・大家畜部・家畜育種研究担当
- [連絡先] 0954-45-2030・chikusanshiken@pref.saga.lg.jp
- [分類] 技術者参考
- [部会名] 畜産専門部会
- [専門] 家畜育種・飼育管理

[背景・ねらい]

当場では、佐賀県和牛改良基本方針に則した産肉能力の高い県産種雄牛を作出し、県内の繁殖農家が利用することで「佐賀牛」の生産拡大を図っている。産肉能力の高い優秀な種雄牛を選抜して肉用牛の改良を推進するため、産肉能力直接検定法で選抜された候補種雄牛「豊晴福（とよはれふく）黒原 6070」、「豊国幸（とよくにさち）黒 15284」について、（公社）全国和牛登録協会が定める和牛種雄牛産肉能力検定法（現場後代検定法）に基づき産肉能力検定を実施し、産肉能力を明らかにする。

[成果の内容]

1. 「豊晴福」産子・「豊国幸」産子（表1）に、飼料給与計画（表2）に沿って、肥育前期は良質乾草を飽食させながら濃厚飼料給与量を毎月 1kg 増給して飼養管理すると、枝肉重量は県平均を大きく上回る。
2. 脂肪交雑も県平均値を大きく上回り、「佐賀牛®」（肉質等級が 4 等級以上、かつ脂肪交雑の BMSNo. が 7 以上のもの）率も 88.3%であった。（表3）

[成果の活用面・留意点]

1. 今後、当場以外で実施された検定も合わせて検定結果を取りまとめ、その結果をもとに 2021年5月の和牛改良検討会にて認定種雄牛を選抜予定である。

[具体的なデータ]

表 1 肥育開始時及び終了時における体重等

			肥育開始時			出荷時		
			開始月齢	体重	DG	出荷月齢	体重	DG
			(か月)	(kg)	(kg/日)	(か月)	(kg)	(kg/日)
豊晴福	去勢産子	(n=4)	8.3	295.0	1.04	27.0	815.3	0.92
豊国幸	去勢産子	(n=2)	9.4	322.5	0.87	28.3	822.5	0.87
豊晴福	雌産子	(n=2)	7.9	252.8	0.96	27.8	771.0	0.87
豊国幸	雌産子	(n=4)	8.2	242.5	0.94	28.4	762.8	0.84

表 2 飼料給与計画 (去勢)

肥育月齢(月)	肥育前期				肥育中期				肥育後期
	1	2	3	4	5	6	7	8~11	12~20
肥育前期用配合飼料	3	4	5	6					
肥育中期用配合飼料					7	8	9	10	
肥育後期用配合飼料									10
チモシー	5	4.5	4	3.5	1.5				
稲わら				0.5	1	← 飽食 →			

注 1) 粗飼料については、肥育前期の 5 か月間は飼料給与計画量を目安に良質粗飼料を飽食とし、肥育 6 か月目からはわらを飽食とした。

注 2) 濃厚飼料は肥育前期から 1kg/月/頭のペースで増給し、10kg を最大給与量とした。

注 3) 肥育前期用飼料から中期用配合飼料への切替は去勢が肥育 5 か月目、雌が肥育 6 か月目に、中期用配合飼料から後期用配合飼料への切替は去勢が肥育 12 か月目、雌が肥育 13 か月目に行った。

注 4) ルーメン内の急激な環境変化を抑えるため、濃厚飼料の増給や切替は 4 回/月以上に分け段階的に行った。

表 3 枝肉成績

		枝肉重量									
		枝肉重量	ロ-ス芯面積	バラ厚	皮下脂肪厚	歩留基準値	脂肪交雑	BCS	光沢	締まり	きめ
		(kg)	(cm ²)	(cm)	(cm)	(%)	(BMSNo.)				
豊晴福	去勢	542.8	77.3	9.2	3.5	75.7	9.8 (6,10,12,11)	3.0	5.0	5.0	5.0
豊国幸	去勢	552.8	55.5	8.1	3.3	72.2	8.0 (11,5)	3.5	4.0	4.0	4.5
R 元県平均	去勢	511.3	65.2	8.3	2.6	74.8	7.9	3.7		4.5	4.6
豊晴福	雌	515.3	80.0	8.8	4.0	75.7	11.5 (12,11)	3.5	5.0	5.0	5.0
豊国幸	雌	521.8	82.3	8.3	3.7	75.9	10.0 (7,11,11,11)	3.3	4.8	4.8	5.0
R 元県平均	雌	456.3	62.7	7.9	3.0	74.4	7.3	3.9		4.3	4.5

注) 県平均：独立行政法人家畜改良センター・肉用牛改良情報活用協議会調べ (R 元年度)

[その他]

研究課題名：肉用牛改良効率向上推進事業 (第 19 期候補種雄牛の現場後代検定)

予算区分：県単

研究期間：2019 年～2020 年

研究担当者：山口博之、松田浩典、石村麻莉乃、木寺雄大

発表論文等：